

## 課題提供：京都市動物園

# 京都市動物園と京産大のコラボだからこそできる “プログラムの創造と発信！”

### 受講生・担当教員

#### ■受講生

姓農 華凜(経済)、前野 姫来(経済)、笠野 颯(経営)、田中 湊(経営)、田中萌生(経営)、宇田 和沙(現代社会)、安田 和奏(現代社会)、馬渡 貴也(国際関係)

#### ■担当教員

吉中 三智子

### 活動目的・概要

京都市動物園は、環境問題や生物多様性の大切さを学ぶ場として大学生にもっと知ってもらいたいと考えています。KYO-DENTアプリを使うと京都産業大学生は100円で入場できますが、そのことを知っている人は少なく、動物園への関心もあまり高くありません。京都産業大学生を対象に過去行った調査では多くの学生が動物園に行ったことがない、場所すら知らない人もいるという結果が出ています。

しかし、京都市動物園ではSDGsや環境問題に関する展示や取り組みを幅広く行っており、実際に体験することで環境への理解を深め、行動を変えるきっかけになります。学生にとって動物園は、教室では得られない学びや気づきを得られる貴重な場であり、環境問題を自分ごととして考えるチャンスとなります。

#### ◆主な活動

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 2025. 4. 10 | ・課題説明     |
| 2025. 4. 26 | ・京都市動物園訪問 |
| 2025. 6. 12 | ・中間報告会    |

- |            |          |
|------------|----------|
| 2025. 9. 9 | ・最終成果報告会 |
|------------|----------|

## 活動の成果

・ポスターは、学内の3ヵ所に掲示しました。京都産業大学生に京都市動物園を知つてもらい、動物園は動物を見るだけでなく、常に「リアル」に変化している環境問題を体験できる最適な場の一つであることを伝えました。



過去 28 日間のチャンネル視聴回数は 2,643 回です



京都市動物園についてより多くの人に知つてもらうために、京都市動物園が行つてゐる活動の紹介動画の作成や作成した動画を見てもらうためにポスターを作成しました。作った動画は、課題提供機関様に確認をしていただき、動画をより良いものへと改善しました。

その動画はまずYouTubeのショート動画として投稿しました。Instagramのアカウントを作成し、YouTubeの動画を共有することや、受講生の自身のアカウントで宣伝をしました。



・InstagramではYouTubeの動画をリールで再投稿し、6本の動画合計で858回、平均で約143回閲覧されています。自身のアカウントで宣伝することで、コメントやリアクション、いいねをもらうことができました。

・YouTubeの動画作成は最後まで見てもらえるように、できるだけ短く、音声やアニメーションをつけ見ている人がより分かりやすく簡単に理解できるような動画を目指しました。

リール動画、ショート動画にした理由は、より多くの人の目に入りやすいのではないかと考えたからです。



## 活動を振り返って

私たちの本格的な活動は、動物園へのフィールドワークから始まりました。最初は、動物園は「動物を見て楽しむところ」だと思っていました。しかし、実際は生物多様性を学んだり、人間は食べられないけど動物は安全に栄養をつけられるものを寄付していただいたりしていたことは私たちにとっては目から鱗のような衝撃でした。

私たちはこの活動を通じて、正解が明確でない問題に向き合うこと、様々な制限のもとで考え、行動することに苦労しました。動物園の役割について、動物園は学びの場所であり、地球規模での環境問題を議論しているということを伝えたいと思いましたが、まず来てもらうことが第一段階であり、「動物園＝動物を見て楽しむ」という印象が強いので、どう表現すればいいのかとても悩みました。加えて、田中様から受け取った動物を擬人化しないこと、複数の動画を作成すること、内容や表現が真面目になりすぎないことなどの依頼に添えているのか、これでいいのかということも不安でした。

ポスター作成は、動画をより見てもらうために誘導できるようなポスターを目指して作りました。最初は何を伝えたらよいか分からず、田中様からアドバイスをいただきながら、改善することを繰り返しました。歩行者の目に留まるようなインパクト、そして動画と同様に、真面目な内容を楽しく表現することが難しかったです。

しかし私たちはこの苦労や不安の中でたくさんのこと学びました。特に力がついたと思うことは、たくさんの制限の中で、できるだけ伝えるということです。動画が長くなりすぎて最後まで見てもらえないということを考慮し、テーマごとに分けて動画の本数を増やすことや、音声やアニメーションなどで頭に入りやすく、もっと見たいと思ってもらえるように、できる範囲で様々な工夫を凝らしました。

今後は、この経験を生かして、より多くの人に地域や施設の魅力を伝えられるような発信の方法を考えていきたいです。今回の活動を通して貴重な機会をくださった課題提供者の方々に心より感謝申し上げます。皆様のサポートがあったからこそ、学びの多い体験ができました。

## 課題提供機関担当者からのコメント

### 京都市動物園 副園長 田中 正之

毎年、課題を少しずつ変えて提供してきましたが、今年はまず、大学生に京都市動物園のことを知ってもらうために何ができるかを考えてもらいました。例年、課題の理解に時間をかけるのですが、今年はできるだけ解決のための方法を考える時間を取りもらえるように時間配分を変更したところ、今の学生らしく二次元コード付きのポスターと、そのリンク先の動画作成というアイデアに早めに収束し、その作成に取り掛かっていました。その後は内容についての確認や、こちらのリクエストとして、できるだけ動画コンテンツの量を増やす方向に振り、それに応えて色々なパターンを作成し報告会で再生回数という、彼らの課題解決の評価結果まで出すことができました。

その一方で、その方法に至るまでのプロセスが端折られているというコメントもいただき、課題提供側としても対応の難しさを感じました。いずれにしても、今期の学生たちは彼らなりに一生懸命に取り組んでくれました。

## 担当教員からのコメント

### 全学共通教育センター 非常勤講師 吉中 三智子

クラスメンバーのみんな、本当に疲れ様でした。そして、京都市動物園の田中様、心より感謝いたします。課題説明の時、動物園は「ただ動物を見て楽しむだけの場所ではない、生物多様性のことや動物園が果たしている役割の大きさ大変さ」について熱くお話ください、感銘しました。それは私だけでなくメンバーの心にも刺さり、様々な動物園を、それぞれが担当して調査し、情報共有、方向性を模索しました。

紆余曲折あったものの動画(大学生がどの位の尺なら動画を見るのか、データのサイズなど、色々考慮した上で)6本作成しサイトにアップ、再生数を褒めてください、それを聞いたメンバーの笑顔を見て微笑ましく思いました。今後、この経験を活かした活躍を期待しています。

最後にもう一度、田中様たくさんのお時間や情報提供、適切なアドバイス、本当にありがとうございました。

## 活動資料

最初のフィールドワークでまだ動物を可愛いと思っていた頃

※授業での動物園訪問以外のタイミングでも  
来園しました。



どのように課題解決に取り組むかホワイトボードに書き出して考えました。

